

# パタン市伝統的市街地における仏教僧院の運営と居住空間の利用状況について -パタン市のムーバヒを中心として-

## The Circumstances of Space Utilization and Management of the Buddhist Monastery in Traditional Urban area of Patan city

- Mainly Focused on MUBAHI of Patan City -

○サキヤ ラタ\*1、高田光雄\*2、神吉紀世子\*3  
SHAKYA Lata, TAKADA Mitsuo and KANKI Kiyoko

Some of the Buddhist Monasteries of Patan City, are being used as commercial buildings and apartments due to rapid urbanization of Kathmandu Valley. In this paper, management and space utilization of monasteries are clarified, mainly by focusing on “Mubahi” of Patan City. The research was conducted by dividing the monasteries into two types, Type A (courtyard surrounded by a 2-storied building) and Type B (courtyard surrounded by monastery and residential buildings). The research findings are as follows: 1) Decrease in Sangha members (a community related to monastery) and weakened financial condition of Sangha members are the reasons for deteriorated management. 2) Utilization of spaces for rental rooms or shops does not always causes negative impact to monasteries, instead it can be source of income. 3) Monastery spaces are utilized for various community activities in Type A whereas limited common space makes barrier to perform community activities in Type B.

キーワード：伝統的市街地、仏教僧院、バヒ、居住空間、運営、パタン市

Keywords: Traditional area, Buddhist monastery, Bahi, Living space, Management, Patan city

### 1. はじめに

#### 1.1. 研究の背景と目的

カトマンズ盆地(図1)はネパールの都市人口の30.9%が住む<sup>注1)</sup>大都市地域である。中世期に<sup>注2)</sup>先住民ネワール族の三小国として発展したカトマンズ、パタン、バクタプールがあり、それらは豊富な彫刻、特徴的な住様式や宗教的空間、公共空間などの伝統的市街地が含まれる歴史的都市である。歴史的建築の目録 Kathmandu Valley <sup>文2)</sup>によると、盆地には層塔が221件、仏教僧院が266件あるとされている。

仏教僧院はサンスクリット語でビハル(Vihara)と言い、釈迦の時代からある。ビハルは僧侶が修行し、人々に宗教を教えるために建てられたものである。カトマンズ盆地に存在する仏教僧院も同じ趣旨で建てられたものとされ、現地ではバハ(Baha)やバヒ(Bahi)として知られ

る。仏教僧院はネパールに密教が導入された時代である8~13世紀にチベットからの学生とインドからの指導者が集まる教育拠点であったため、カトマンズ盆地(特に現在のパタン市)を“vast university city”<sup>注3)</sup>と表現する研究者もいる。しかしその後の密教の発展によって次第に出家僧侶が減少し、また14世紀のカースト制

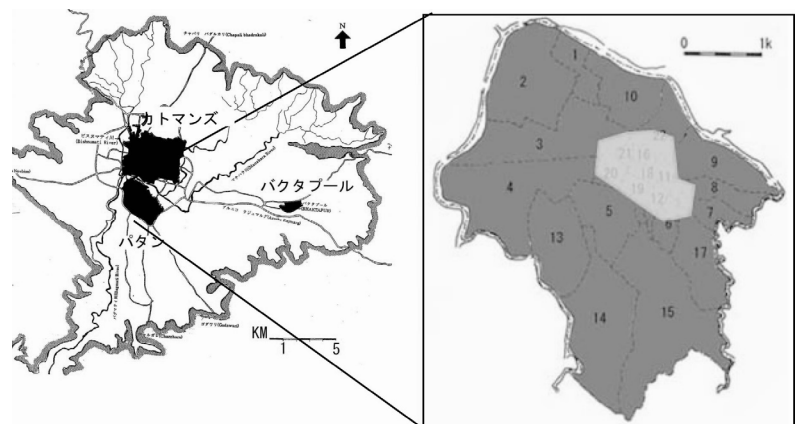


図1 カトマンズ盆地とパタン市の伝統的市街地を示す図

\*1 京都大学 博士後期課程・修士(学術)

\*2 京都大学 教授・博士(工学)

\*3 京都大学 准教授・博士(工学)

Graduate Student, Kyoto University  
Prof., Kyoto University, Dr. Eng  
Asso.Prof., Kyoto University, Dr. Eng

度導入によりさらに出家僧侶が減少したといわれている<sup>注4)</sup>。そして、それに伴い仏教僧院は徐々に僧侶の住居に変化してきたとされている。

また、ゴルカ王朝がネパールを統一した1769年以降、首都圏であるカトマンズ盆地への移住者<sup>注5)</sup>が増加し、1990年の民主化以降は都市化が進行<sup>注6)</sup>した。それに伴い、仏教僧院街区で持ち家<sup>注7)</sup>が借家や店舗に利用されるようになった。仏教僧院の空間が個人所有物になり、個人所有者が仏教僧院の居住空間を商業空間に変更し、元々住んでいた僧侶は郊外に移住するという現象がみられ、仏教僧院は名前だけのものに変化している。

ネパール考古局 (Department of Archeology) は築100年以上の仏教僧院の復元のために補助金を提供しているが、仏教僧院の運営・管理や空間利用の変化については対策を行っていない。また、仏教僧院総会による保存事業が行われている地域では仏教僧院の個人所有化を抑制する対策が行われている場合もあるが、それは一部の地域に限られている。

現在、カトマンズ市では仏教僧院街区の商業街区化やオフィス街区化が進んでいるが、パタン市ではカトマンズ市に比べると変化が緩慢だとされる。しかし、都市化が進む中、今後数年でパタン市もカトマンズ市と同様の状況になる可能性が高く、仏教僧院の空間を評価した上で~~の~~居住環境整備を行う必要がある。

そこで、本研究では伝統的市街地の居住環境整備に関する知見を得ることを最終目的として、仏教僧院の居住空間の実態を明らかにする。筆者ら<sup>文(9)</sup>はすでに仏教僧院バハの生活空間について調査を行い、住居併用のバハにおける、宗教的空間、生活空間、地域空間の重層性を明らかにしている。それに続き、本稿ではもう一つの仏教僧院であるバヒの主僧院ムーバヒを取り上げ、そこでの居住空間の利用状況および運営状況を明らかにする。

## 1.2. 既往研究との関連

カトマンズ盆地は歴史的にみて、8~13世紀の密教成長期<sup>注8)</sup>において重要な地域であったこと<sup>注9)</sup>から、カトマンズ盆地の仏教僧院に関する宗教学的的研究、歴史的研究、文化人類学的的研究が多く見られる。

現地の研究者による研究には仏教学的的研究が多い。Hem Raj Shakya<sup>文(12)</sup>は仏教僧院の碑文や古代文献から仏教僧院の類型と特徴を明らかにした著名な研究者として知られる。Hera Kaji Vajracharya<sup>文(13)</sup>は特にパタン市の仏教僧院の運営組織と行事についてまとめている。また、Min Bahadur Shakya<sup>文(3)(14)(15)</sup>はチベットおよび中国で保存さ

れている古代文献をネパール語と英語に翻訳し、中世の仏教学者の活動について詳しく研究している。また、Lotus Research Center は仏教に関する古資料の解説本を出版し、新たな調査研究を行っている現地の研究所であり、仏教僧院に関してもバクタプール市内の仏教僧院の実態調査を実施している。

一方、外国人研究者による調査研究も多い。UNESCO<sup>文(2)</sup>の調査研究をまとめた歴史的建築目録にはカトマンズ盆地内に存在するすべての寺院、仏塔、仏教僧院の歴史、写真、配置図が掲載されており、貴重な資料となっている。Wolfgang Korn<sup>文(16)</sup>は仏教僧院をカトマンズ盆地の伝統的建築の一つとして紹介しており、仏教僧院をバハ、バヒ、バハバヒに分類し得ることを指摘した上で、はじめてそれぞれの図面を作成し考察した研究者として評価が高い。また、John. K. Locke<sup>文(4)</sup>は盆地内の全仏教僧院の歴史、運営組織形態、行事などを最も詳しく考察している。David Gellner<sup>文(5)</sup>は仏教僧院の行事から仏教とヒンズー教を比較し、さらに仏教僧院の変遷についても考察を行っている。

日本からは日本工業大学<sup>文(17)</sup>がイバハバヒというムーバヒの復原にあたって、復原前から完成までにわたって調査研究を行っている。バハとバヒを建築形態から四つに類型化しており、複数のバヒの建築的様相を詳しく調べている。しかし、仏教僧院の運営や空間利用については考察していない。また、Mohan Pantら<sup>文(18)</sup>の研究はパタン市の空間構成に関して地区と仏教僧院の関係を探っている。

ネパールの大学の建築学科で仏教僧院を対象にした調査研究は多少見られる<sup>文(19)</sup>が、いずれも現状の報告書レベルのもののみで、詳しく考察されたものは見られない。

このように、これまで仏教僧院は宗教的および歴史的に重要な建築物として多くの研究が行われてきたが、現代における居住空間および地域空間としての利用の現状や運営について明らかにした研究はみられない。

本研究はムーバヒをとりあげ、仏教僧院の宗教的空間としての意味合いに加え、生活空間および地域空間としての現状をあきらかにするという点が特徴である。

## 1.3. 研究の方法

研究対象地域としてはカトマンズ盆地において特に仏教僧院が多く存在するパタン市の伝統的市街地を選定した。

研究方法としてはまず、仏教僧院の変遷や現在実施されている仏教僧院に関する事業を把握するために、文献

調査および現地関連組織の専門家に対するインタビュー調査を行った(2章)。また、ムーバヒの運営状況および空間利用を把握するために、ムーバヒ 21 件の管理人を対象としたインタビュー調査を行った(3章)。また、許可が得られた仏教僧院においては実測調査も行った(3章)。調査を行った時期は 2008 年 3 月と 2009 年 5 月である。

## 2. パタン市伝統的市街地における仏教僧院の現状

### 2.1. 仏教僧院 (バハとバヒ) の変遷

仏教僧院 (以下僧院) は、サンスクリット語でビハル、現地のネワール語でバハあるいはバヒと呼ばれる。表 1 は文献調査<sup>文(4)~(6)、(12)~(15)</sup>や現地の仏教学研究者たち<sup>注 10)</sup>のインタビュー調査から僧院の変遷をまとめたものである。8 世紀頃に密教 (Vajrayana) がネパールに導入されてから在家僧侶が増加した。当時は、バヒが出家僧侶の修行場で、修行が終わりサキヤビクシュ (Shakya Bhikshu) というポストを取得後、在家になり、バハでの修行が始まるとされる。ここで修行が終わるとバジュラチャルヤ (Vajracharya) というポストを取得する。

また、僧院の運営・管理のために僧侶がサンガ (Sangha) という組織を設けている。しかし、出家僧侶の減少に加えて、14 世紀のマッラ王朝のカースト制度の確立により、「サキヤ」や「バジュラチャルヤ」のようなポストが僧侶カーストに変更されてしまい、僧院は僧侶カースト以外の人々が修行する場ではなくなってしまったと文献に読み取ることができる。

修行することでサンガ組織に入会するというしくみは残るが、修行 (バレ チュエグ Bare chuegu) 自体の意味がサキヤやバジュラチャルヤの男児が 5~7 歳の間に 4 日間だけ僧侶生活をするという形式的なものに変化している。このようにカースト制度の確立や修行の形式化に伴い、サンガ組織の構成員が血液関係になったのである。そして、やがてサンガ構成員が僧院を私物化し、建物を分解し、個人住宅のように住むことになる。カトマンズ市はこの傾向が顕著で、僧院の消滅に気づいたパタン市が 1974 年に仏教僧院総会 (Society of Buddhist Monastery, 以下 SBM) を設立し、僧院保存事業を始めた。そして、サンガ構成員が勝手に僧院を所有できないように、僧院名義で所有権書を作成し、1991 年までに各僧院に所有権書の配布を完了した<sup>注 11)</sup>。これによって、パタン市では僧院の売買がひとまず抑止されたといえる。しかし、僧院の運営・管理といった売買以外の課題についてはまったく取り組みがなく、現在、パタン市では僧

表 1 仏教僧院の変遷※文(3)~(6)、(12)~(15)インタビュー調査により著者作成

| 重要な日時    | 特徴                                   | 主な出来事  |
|----------|--------------------------------------|--|
| 8世紀~13世紀 | 教育の都市として盛んになる (City of Universities) | バハ<br>・在家僧侶の修行場<br>・「バジュラチャルヤ」ポスト取得する場<br>・運営・管理は僧侶たちの「サンガ」といわれる組織より行われる   |
| 14世紀以降   | 個人住宅化が進んだ時期                          | カースト制度の設立により<br>・サキヤ、バジュラチャルヤが僧侶の職をもつとして上位カーストになり、未婚僧侶は完全になくなり、<br>・サキヤやバジュラチャルヤの男児が5~7歳の間に4日間の僧侶生活をすることでサンガ組織に入会することという血縁関係の組織に |
| 1974年    | 僧院の保存の事業が始まる                         | パタン市仏教僧院会 (Boudha Vihar Sangha) を設立し、<br>・僧院の所有権書の獲得に取り組む  |
| 1991年    | 個人住宅化が止められた                          | 当時の総理大臣の手からムーバハ、ムーバヒの名前の所有権書を配られ、個人が勝手に売買することを止められた  |

表 2 仏教僧院の概要 ※文(4)を参考に著者作成

|           | 典型的な形態   | 件数  |
|-----------|--|---|
| バハ (Baha) | 2階建てで、1階は中庭を取り囲む形で、複数の部屋になっており、上階は各部屋が完全に仕切れ、隣接部屋には直接出入りできない。建物の装飾が豊富である。                            | ムーバハ (Mubaha・主僧院) 16<br>カチャバハ (Kachabaha・副僧院) 105 |
| バヒ (Bahi) | 2階建てで、1階は中庭を囲むようにホールになっており、上階には中庭に向けて半屋外ベランダがあり、全部の部屋がつながっている。常に玄関は道路より高地にあるため階段を設けられる。建物には装飾があまりない。 | ムーバヒ (Mubahi・主僧院) 21<br>カチャバヒ (Kachabahi・副僧院) 10  |

※パタン市内のムーバハは18件、ムーバヒは25件数えられるが、上記は伝統的市街地内のみを記入している

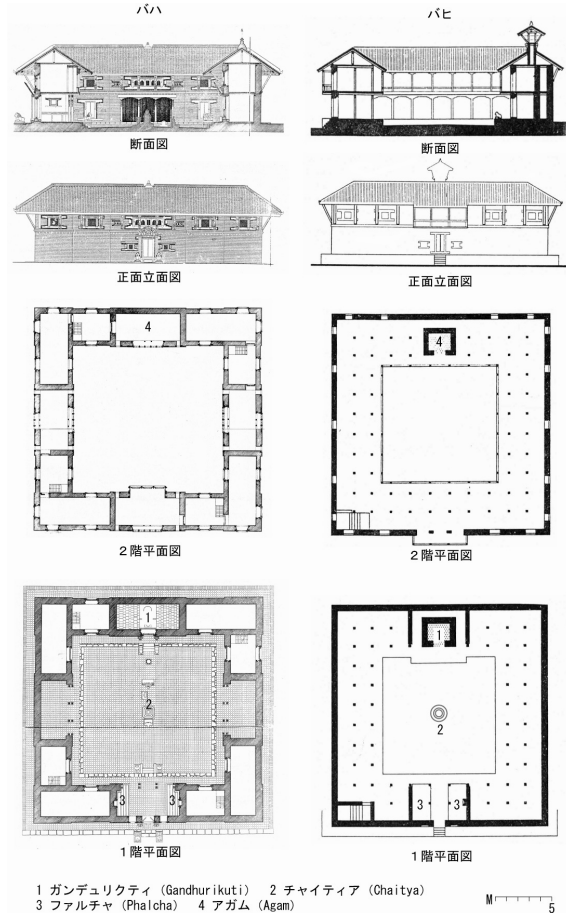


図 2 典型仏教僧院 ※文献(10)より引用し、著者が数字と日本語記入を加えた

表 3 バハとバヒの比較※文(3)~(6)により著者作成

|    | バハ                                | バヒ   |
|----|-----------------------------------|--|
| 1  | 街の中に位置する                          | 街の外側に位置する  |
| 2  | 道路のレベルと同じレベルになる                   | 道路のレベルから高いところに位置し、玄関には階段を設ける                           |
| 3  | 入り口の真上には格子窓を設ける                   | 入り口の真上にはバルコニーを設ける                                      |
| 4  | 中心の神殿 "Gandhakuti" を回転できるような空間はない | 中心の神殿 "Gandhakuti" を回転できるような小路 "Pradarsan maarga" を設ける |
| 5  | Gandhakuti 以外も仕切りがあり、個室になっている     | Gandhakuti 以外も仕切りがなく2階の空間は開放的である                       |
| 6  | 2階も仕切りがあり、個室になっている                | 2階の空間も Gandhurikuti の真上の部屋以外は開放的である                    |
| 7  | 小さい Gajur だけ設け、望楼型の櫓を設けない         | Gandhurikuti の真上の屋根の部分には望楼型の櫓を設ける                      |
| 8  | 2階にバルコニーはない                       | 2階には中庭に向かってバルコニーが一周となっている                              |
| 9  | 階段が4箇所設ける                         | 階段は1箇所だけで、広い   |
| 10 | 別の建物に設ける                          | Digi という行事などに使う空間は同じ建物にする                              |
| 11 | 一般の人々の住宅と接している                    | バヒは一般の地域の人々の住宅とは接していない                                 |



院の保存に関する活動は特に見られない。仏教僧院総会の設立時に会長であった Buddhi Raj Bajracharya 氏が個人的に民間組織を設立し、僧院復原事業を始めている。

一方、行政が歴史的建築物保存の観点から僧院の改修工事を行う事例もみられるが、サンガ構成員からの申請がないかぎり事業は始められず、また申請があっても建替

えのような多額の費用がかかるものは手がつけられていない。

## 2.2. ムーバハとムーバヒの典型居住空間

バハとバヒはそれぞれ主僧院と副僧院に分けられる。サンガ組織をもち、バレ・チュエグ儀式を行う僧院が主僧院で、ムーバハやムーバヒといわれる。パタン市にある主僧院はムーバハ 16 件、ムーバヒ 21 件、副僧院はカチャバハ 105 件、カチャバヒ 10 件である (表 2) 注12)。典型と思われるムーバハとムーバヒを図 2 注13) に示した。両者共通の空間構成の特徴をみると、どちらも 2 階建ての中庭形式で、入り口のすぐ両側に腰掛け場 (ファルチャ)、入り口から正面に神殿ガンデウリクティ (Gandhuri kuti)、中庭の中心に神殿ガンデウリクティに向かうチャイティヤ (Chaitya) があり、僧院の裏側に井戸あるいはヒティ (自然水道) がある (図 2)。一方、両者の違いとして、バハは 4 箇所に階段があり密教の修行することを目的として建てられたものであるのに対して、バヒは神殿以外の部分が開放的で修行や教育提供を目的に建てられたものと考えられる。また、バハはイベント・集会の空間が僧院外部に設けられている点から、バヒよりも閉鎖的で、在家僧侶のプライバシーに配慮していると推測できる (表 3)。

## 2.3. ムーバハとムーバヒの運営組織サンガ

サンガ組織が毎日の祈願 (Nitya Puja)、年間の様々な祈願行事、僧院の管理などをムーバハあるいはムーバヒのサンガ構成員内で年毎や月毎の運営委員を決めて行っている 注14)。また、運営や管理のための資金はサンガ組織の会費、僧院が所有する土地から得ている 注15)。

ムーバヒはもともと数が少ない出家僧侶の子孫がサンガ構成員になるため、ムーバハに比べてサンガ組織の構成員が極めて少なく、行事などを他のムーバヒと助け合って運営している。以前はムーバヒ 21 件に 1 つのサンガ組織が作られていたが、徐々に分解され、現在は 3~4 件毎にサンガ組織が作られている。一方、ムーバハの場合、サンガ構成員が多く、副僧院のカチャバハが多く作られている。サンガ構成員が 500 人を越えるものも複数ある。そのため、ムーバヒに比べてムーバハは僧院同士の関係が弱く、自力で行事やイベント活動をしている。

## 3. ムーバヒの運営および利用状況

### 3.1. ムーバヒの分布と類型化

パタン市に存在する 21 件のムーバヒの位置を示し、その類型化を行ったのが図 3 である。静かなところでの修

行が目的と言われている 注16) ようにムーバヒは伝統的市街地の比較的周縁部に位置しているといえる。全ムーバヒが 15 世紀以降に建てられたものであり、数回にわたって改修も行われている。典型ムーバヒのように中庭が一つの建物で囲まれている場合は全体がサンガの所有になっているが、部分的に個人住宅化した場合は所有権が個人に移転されている。それによって、僧院の空間利用や運営・管理状況に影響すると考えられる。そのため、21 件を個人住宅が含まれていない TypeA と個人住宅が含まれている TypeB に分類することにした。その結果、すでに 9 件が個人住宅が含まれる TypeB に変化していることがわかった。

また、さらに詳細に現状を把握するため、それぞれのタイプを建物や管理状態が良いもの (1)、老朽化し管理状態が良くないもの (2)、建て替えされたもの (') と分類した。TypeA には管理状況の良いもの (a1) が 4 件で、老朽化し管理状況が良くないもの (a2) が 4 件、建て替えられたもの (a') は 4 件であった。

また、TypeB においては個人住宅以外の僧院部分の管理状態良い (b1) は 4 件、老朽化し、管理状態も良くないもの (b2) は 3 件、建て替えられガンデウリクティが独立して建っているものは 2 件であった。

### 3.2. ムーバヒの運営状況と所有権

表 4 ムーバヒの所有権の移転※著者作成

| No. | 僧院タイプ | 僧院名                   | サンガメンバー数 | 現在のサンガの運営体制※1      | 現在の所有※2 |
|-----|-------|-----------------------|----------|--------------------|---------|
| 4   | a2    | ilaaye bahi           | 0        | Henu baha          | THB     |
| 6   | b2    | thapa bahi            | 0        | Guji baha          | THB     |
| 7   | a2    | iyaba bahi            | 1        | Iba bahi(8)        | THB     |
| 9   | a'    | kinu bahi             | 0        | dhapaga bahi       | BRC     |
| 11  | b'    | khwaye bahi, tadhagu  | 0        | Iba bahi(8)        | BRC     |
| 12  | b'    | khwaye bahi, chidhagu | 0        | Iba bahi(8)        | BRC     |
| 20  | a'    | pucho bahi, chwathu   | 0        | Pucho bahi, kwatha | SMB     |

※1 僧院に関する儀式を意味する ※2 THB:Theravada Bihar(上座仏教の僧院)、BRC: Buddhist Research Center, SMB:Society of Buddhist Monastery

※3 7.8.11.12 のBahiのサンガが合併した運営体制をとっている。

21 件のムーバヒのサンガ構成員の人数には差異が大きい。表 4 にあるようにサンガの構成員が 1 人または 0 人になる場合、僧院の日常行事などのために他のムーバハあるいはムーバヒのサンガ組織が運営を行うことになる。また、サンガの構成員がいなくなると僧院の所有権も移転していることが分かる。建替えられた 4 件とも放置された状態のものであったが、それらは SMB や BRC (Buddhist Research Center) が買い取り、所有権を移転したものである。

### 3.3. ムーバヒの空間利用状況

ムーバヒの空間利用は本来のガンデウリクティ (1 階の神殿)、アガー (Agam, 2 階の神殿) の宗教的利用以外に表 5 のように収入源になる空間、地域活動の空間と上

表5 ムーバヒの利用状況※著者作成

| ムーバヒのタイプ | ムーバヒの形態※1 | No. | ①サンガメンバー・所有権状況※2 | ②ビハル | ③長期賃貸(収入源)       |    |      |     |      |           | ④一時的貸し部屋(地域活動) |        |            |      |     |      |       |           |     |
|----------|-----------|-----|------------------|------|------------------|----|------|-----|------|-----------|----------------|--------|------------|------|-----|------|-------|-----------|-----|
|          |           |     |                  |      | 賃貸住居             |    | 商売関連 |     | 教育関連 |           | 事務所            |        | 地域の住民参加の活動 |      |     |      |       |           | 地域外 |
|          |           |     |                  |      | サンガ構成員や地域外の住民も含む | 店舗 | 工房   | 小学校 | 仏教学校 | ムーバヒ守る会※3 | サハカリ(生協組合)     | 結婚式・行事 | 伝統的音楽教室    | お経読み | 婦人会 | 地区集会 | 健康診断所 | セミナーイベント場 |     |
| Type A   | a1        | 10  | 153              |      |                  | ●  | ●    |     |      | ●         | ●              | ●      | ●          | ●    | ●   | ●    |       |           |     |
|          | a1        | 13  | 15               |      | ●                |    |      | ●   |      | ●         | ●              | ●      | ●          | ●    | ●   | ●    |       |           |     |
|          | a1        | 14  | 32               |      | ●                |    |      |     |      | ●         | ●              | ●      | ●          | ●    | ●   | ●    |       |           |     |
|          | a1        | 19  | 156              |      |                  | ●  |      |     |      |           | ●              | ●      |            |      |     | ●    |       |           |     |
|          | a2        | 4   | THB              | ●    |                  |    |      |     | ●    |           |                |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | a2        | 7   | THB              | ●    |                  |    |      |     |      | ●         | ●              | ●      | ●          | ●    | ●   |      |       |           |     |
|          | a2        | 15  | 1                |      |                  |    |      |     |      |           |                |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | a2        | 16  | 8                |      | ●                |    |      |     |      |           | ●              |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | a'        | 8   | 39               |      | ●                | ●  |      |     |      | ●         | ●              |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | a'        | 18  | 101              | ●    |                  |    |      |     |      |           | ●              | ●      |            |      |     |      |       |           |     |
| a'       | 9         | BRC |                  |      |                  |    | ●    |     |      |           | ●              |        |            |      |     | ●    |       |           |     |
| a'       | 20        | SMB |                  |      |                  |    | ●    |     |      |           |                |        |            |      |     | ●    |       |           |     |
| Type B   | b1        | 3   | 24               |      |                  |    |      |     |      |           | ●              | ●      | ●          | ●    |     | ●    |       |           |     |
|          | b1        | 5   | 6                |      |                  |    |      |     |      |           |                |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | b1        | 17  | 34               | ●    |                  |    |      |     |      |           | ●              |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | b1        | 21  | 90               |      |                  |    |      |     |      |           | ●              | ●      |            |      | ●   |      |       |           |     |
|          | b2        | 1   | 24               |      |                  |    |      |     | ●    |           |                | ●      | ●          |      |     |      |       |           |     |
|          | b2        | 2   | 30               |      |                  |    |      |     |      |           |                |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | b2        | 6   | THB              |      |                  |    |      |     |      |           |                |        |            |      |     |      |       |           |     |
|          | b'        | 11  | BRC              |      | ●                | ●  |      | ●   |      |           |                |        |            |      |     |      |       | ●         |     |
| b'       | 12        | BRC |                  | ●    | ●                |    | ●    |     |      |           |                |        |            |      |     |      | ●     |           |     |

※1図3参照 ※2表4参照 ※3収入源にならないものとする

座仏教 (Theravad Vihar, 以下 THB) 注17) の宗教的空間に分けられる。

Type A の事例 a1-10, a1-13, a1-14, a1-19 はサンガの構成員が多く、店舗や貸し部屋のような従来の使い方とは異なる収入源として使用されている一方でたくさんの地域活動にも空間を利用され、活発なムーバヒであるといえる。しかし、同じ良い状況であっても個人住宅が含まれている b1-3, b1-5, b1-17, b1-21 場合は収入源に繋がる活動ではサハカリ (生協組合) の事務所として利用されているだけで、主な収入源になっているとはいえない。また、地域活動を行っているものも b1-3 のムーバヒのみである。b1-17 は THB ビハルとして地域に公開しているが、サンガは THB の部分の所有権はすでに THB に移転されており、運営・管理に関わっていない。

事例 a2-4, a2-7, a2-15, a2-16 はサンガの構成員が少なく、収入源の活動や地域活動にも a2-7 以外は利用が少ない。一方 TypeB になると b1 の場合よりさらに収入源になる活動や地域活動が乏しくなっているといえる。これはサンガが弱体化したことで、管理が悪化し、建物の老朽化に繋がっていると考えられる。

建替えられたムーバヒの中では a' -8, a' -18 は伝統的建築様式に建替えられたもので、a' -9, a' -20 は鉄筋コンクリート造で建て替えられたものである。空間利用を見ると、a' -18 は THB ビハルとイベント場にみに利用している。サンガの構成員にインタビュー調査

をしたところ、僧院は本来の趣旨「教育を提供する場」に従うべきだということサンガの構成員で認識し、ムーバヒの建て替え後、THB ビハルを設けるようにしたことが分かった。このムーバヒでは、所有権を THB ビハルに移さず、無償で空間を提供していることになる。また、a' -9, a' -20 は所有権が仏教研究センターと仏教僧院総会に移転してから建替えられたため新しいセミナー室・イベント場、図書館、ゲストルームなどの空間があり、地域外の活動に多く使われている。また、座禅教室、著名な方による講演会なども開催されている。このような活動は知識層や若者に向けての従来の僧院での活動とは異なる新たな活動であるといえる。しかし、従来のような地域の住民が気軽に出入りできる空間にはなっていない。一方、b' -11 と b' -12 は仏教研究センターに所有権を移転してから RC 造の建物に建て替えしたものである。僧院の建物部分としてはガンデウリクティのみになっているため中庭の領域のも明確ではない。ガンデウリクティ以外の部分は工房、個人住宅、賃貸住宅、仏教学校など収入源として多く使われているが、地域活動には使われていない。

### 3.4. 事例で見るムーバヒの空間利用

#### (1) TypeA-a1-14

この事例のムーバヒは原型に最も近いものとして図面化されている (図2参照)。しかし、現在の空間利用は大きく変化している。まず、1階のホールは個室にし、貸

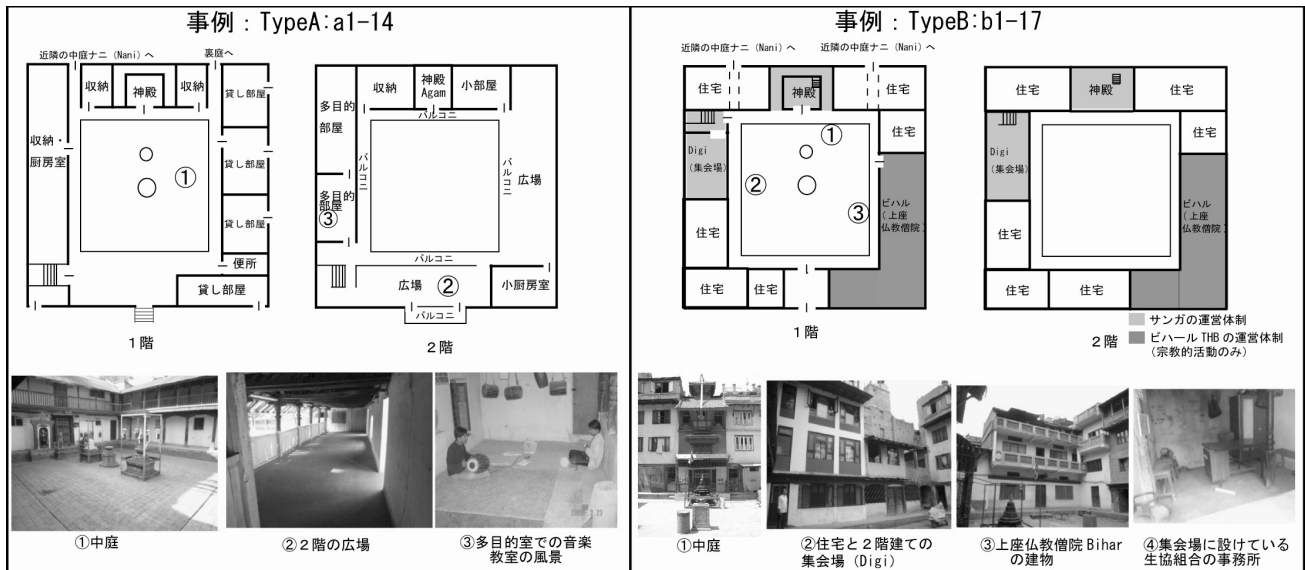


図4 事例の間取り図にみるタイプ別のムーバヒの空間利用状況※著者作成

し部屋や厨房室、収納になっている。2階にも小厨房室、多目的室2つ、小部屋が設けられている。貸し部屋以外は共用空間として結婚式、行事、伝統的音楽教室、会議室など地域の活動に使う空間になっている(図4)。また、このムーバヒでは僧院の内部からは貸し部屋のアクセスできないようになっているため、貸し部屋以外の空間(中庭など)は生活空間に利用されていない。また、インタビュー調査の際は「2階の小部屋を数日間サンガの構成員の世帯が自宅の建て替えの間の住む場所として無償で使われていた」という話を聞くことができた。サンガ構成員が必要な時には利用できる空間になっているといえる。また、貸し部屋にすることで、サンガ組織はその賃料を建物の改修や管理に当てることもできている。

#### (2) TypeB-b1-17

このムーバヒは典型のように中庭を囲むようになっている一つの構造の建物ではなく、ガンデウリクティとディギ(Digi、行事をするための厨房・広場の空間)が別々の建物になっている。ディギは2階建てで、1階はサンガの構成員が作っている生協組合事務所に使われている。2階は行事などに利用する空間となっている。また、僧院の3分の1の空間はTHBビハルに寄付され、所有権も移されている。ビハルには上座仏教のお坊さんが住んでおり、月の初日や満月などのときには地域の人々が集まるようになっている。このように部分的に個人住宅化しながらもビハルの存在によって地域活動の場になっているといえる。サンガは所有権を持たず管理運営にも関わっていないため、典型的ムーバヒの空間とは異なるといえる。

#### 4. まとめ

##### 1) ムーバヒの運営状況

ムーバヒの運営や管理はサンガ組織によって行われるが、サンガの構成員が少なくなると毎日の宗教的行事ができるように他のムーバヒからの支援が行われる。しかしそれは宗教的行事に限ることであり、僧院の管理や改修についての支援はない。

##### 2) ムーバヒの利用状況

ムーバヒの利用状況は中庭を囲んで僧院全体が一つの構造になり個人住宅が含まれていないもの(TypeA)とそうでないもの(TypeB)で異なった傾向を示している。

TypeAの場合はTypeBに比べてサンガが所有権をもつ僧院としての空間が多いため、収入源に繋がるものや地域活動になるものなど複数の目的に空間利用ができる。しかし、サンガ構成員が少なく運営体制が弱くなると管理の低下に繋がっているといえる。また、管理できず放置状態にある僧院は仏教僧院総会などにより建て替えられているが、建て替え後の利用には建て替え前とは異なり新たな利用が行われている。

TypeBの場合は典型僧院の空間が個人住宅に変化したため、TypeAに比べて、僧院としての活動が少なくなっていた。また、長期に賃貸できるような収入源となる空間が少ない。建て替えた事例に関してはガンデウリクティが独立し、収入源に繋がっても地域空間に利用されないことが課題といえる。

今後はさらに事例ごとの地域活動内容を詳しくみていき、居住空間整備の知見を得るため、僧院における地域への役割について深めていきたい。

<注釈>

- 1) 文献(1)chapter 10, Urbanization and development, p.385
- 2) 文(3)と(10)によるネパールの時代区分を以下に示す。

| 時期  | 時代     | できごと                           |
|-----|--------|--------------------------------|
| 古代期 | リチャビ時代 | 5～9世紀                          |
|     | 不明時代   | 9～11世紀                         |
| 中世期 | マッラ時代  | 12～18前半                        |
| 近代期 | シャハ時代  | 18後半～                          |
|     | ラナ時代   | 1846～1951                      |
| 現代期 | シャハ時代  | 1951～(政党のない民主主義"バンチャヤット"体制になる) |
|     | シャハ時代  | 1990(民主化)                      |
|     | 王制廃止   | 2008(民主共和国)                    |

- 3) 文献(3),p.4より。
- 4) 文献(4)、(5)、(6)より。
- 5) 文献(1)chapter15,Internal Migration in Nepal, p.145
- 6) 1978年から2000年までにカトマンズ盆地の都市域が450%(14000ha)も増加している(文献(7)を参照)
- 7) 伝統市街地の持ち家とはネワール族の伝統的住宅のこと(文献(8)を参照)である。
- 8) 文献(3)のp.4や文献(10)のp.193には“Buddhism appears to have reached to its zenith during the period”とある。また、文献(10)にネパールにおける仏教の沿革に関する記述があり、文献(4)、(5)、(6)でも当時、仏教が発展したことが記述されている。
- 9) 文献(4)、(5)、(6)より
- 10) Lotus Research Centerの研究者たちへのインタビュー調査、Min Bahadur Shakya氏へのインタビュー調査による
- 11) パタン市長を10年以上務め、仏教僧院会の設立から数年前まで会長を務めていた、Buddhi Raj Bajracharya氏へのインタビュー調査による
- 12) 副僧院にも独自のサンガ組織があるが、多くはサンガ構成員になるためのバレチュエグ儀式をしないものである。これらは人口増加とともに主僧院の近隣にできていたと推測されている。
- 13) 図のバハは Chhusya Baha であり、ムーバハかどうかは確定した記述がないが、ここでは協力者の情報に基づいてムーバハとした。
- 14) ムーバハ、ムーバヒごとに僧侶のポストがあり、上位の僧侶たちによって、サンガに入会するための「バレチュエグ」行事や他の様々な宗教的行事が行われる。また、サンガ組織とはサキヤ・バジュラチャルヤにとって僧院の運営だけではなく、結婚・葬式など人生のすべての社会儀式に関わる組織である。
- 15) カトマンズ盆地のネワール社会には僧院で行われる儀式などが継続的に行なうことができるように各儀式にグループを作り、各グループが土地を所有し、その土地から得た収穫物を儀式の経費や管理費に利用される伝統的な仕組みがあり、グティ(Guthi)という。
- 16) 文献(3)、(12)、(13)より
- 17) 上座仏教(Theravad)とは初期の仏教で、バハヤバヒの大乗・密教とは異なるものであり、戒律がきびしいものである。

<参考文献>

- (1) Government of Nepal, National Planning Commission Secretariat : ,Population Monograph of Nepal 2003 Vol1, 2 , Central Bureau of the Statistics, www.cbs.gov.np/population\_2\_contents.php
- (2) Government of Nepal with the United Nations and UNESCO : Kathmandu Valley, Preservation of Physical Environment and Cultural Heritage A protective Inventory vol 2, Anton Schroll & Co., Vienna, 1975
- (3) Min Bahadur Shakya: Hiranyavarna Mahavihara, A Unique Newar Buddhist Monastery, Nagarjun Publication Pvt. Ltd, Kathmandu, 2004
- (4) Locke, John kerr:Buddist Monasteries of Nepal: a survey of the bahas and bahis of the kathmandu valley, Sahayogi Press Pvt. Ltd., Kathmandu, 1985
- (5) Ajaya Kranti Shakya: The Shakyas, Nepal Buddhist Development & Research Centre, Kathmandu, 2006
- (6) David N Gellner: The Anthropology of Buddhism & Hinduism Weberian Themes, Oxford University Press, New Delhi, 2003
- (7) Barry N. Haack, Ann Rafter: Urban growth analysis and modeling in the Kathmandu valley, Nepal, Habitat International 30,

- pp.1056-1065, 2006
- (8) サキヤ ラタ、上野勝代、藤本尚久：ネパールの都市部における高齢者居住空間の新旧住宅街類型間比較、日本建築学会 住宅系研究論文報告会論文集 1, pp.131-140, 2006
  - (9) サキヤ ラタ、高田光雄、神吉紀世子：ネパール、パタン市伝統的市街地における仏教僧院にみられる生活空間について伝統的市街地における高齢者の居住環境の整備に関する研究 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-2 分冊, p. 345-346, 2008
  - (10) Khadga Man Shrestha : History of Buddhism in Nepal upto 1956 with special reference to Vajrayana Buddhism, Sagun Printing Press, Kathmandu, 2008
  - (11) Rajesh Shakya: Evolution of Buddhism, Y.M.B.A. Chanting Book pp. 62-66, Young Men's Buddhist Association of Nepal, Lalitpur, 1997
  - (12) Hem Raj Shakya: Achheshwor Mahavihar Pucho, Boudha Vihar Sangha, Lalitpur,1990
  - (13) Hera Kaji Bajracharya:Lalitpur Bauddha Vihara, Boudha Vihar Sangha, Lalitpur, 2000
  - (14) Min Bahadur Shakya: Monasticism in Newar Buddhism, A Historical Analysis, A Conference on Buddhist Heritage of Nepal Mandal-1998, Lotus Research Center, Nepal
  - (15) Min Bahadur Shakya: A Study of Traditional Vajrayana Buddhism of Nepal, "Newa Buddhist Culture Preservation seminar" in 1993, Lotus Research Center, Nepal
  - (16) Wolfgang Korn:Traditional Architecture of the Kathmandu Valley, Ratna Pustak Bhandar, Kathmandu, 1986
  - (17) 日本工業大学ネパール王国古王宮調査団:ネパールの仏教僧院、中央公論美術出版 1998
  - (18) Mohan Pant & Funo Shoji: Stup & Swastik , Historical Urban Planning Principles in Nepal's Kathmandu Valley, Kyoto University Press, 2007
  - (19) Siddhi Bahadur Bajracharya: Role of Art and Architecture in Harmonious Cities, Sahari Bikasa, Six Monthly Bulletin, Department of Urban Development & Building Construction, Ministry of Physical Planning and Works, 2008

<謝辞>

本調査にあたっては現地の仏教僧院の管理者の方々や研究者の方々に多大な協力をいただきました。本研究は2008年度松下国際財団研究助成により行われたものである。記して謝意を表します。